

「今、何の病気が流行しているか！」

(川崎市感染症発生動向調査事業—令和4年第14週)の情報提供について

市内の定点医療機関から提供された感染症の患者発生情報をもとに市民提供情報である「今、何の病気が流行しているか！（令和4年第14週）」を作成しましたのでお知らせします。

令和4年第14週（令和4年4月4日から令和4年4月10日まで）

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）突発性発しん 3）流行性角結膜炎でした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.57人と前週（3.22人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.11人と前週（0.22人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。

今週のトピックス

“新型コロナウイルス感染症～学校等での予防対策～”について取り上げました。

新学期が始まり、子ども同士が接触する機会も増えてきました。児童生徒等における新型コロナウイルス感染症の感染経路は、家庭内が最も多いとされていますが、学校内での感染も一定程度報告されています。

学校内感染のうち、同一クラスでの感染は幼稚園では65%、小学校では79%と多くを占めるものの、中学校や高等学校になると同一部活動での感染が25%、45%と多くなります。また、教職員は教室内や部活動だけでなく、職員室での感染も13%認められます。

学校内では、学校や年齢ごとの特徴を踏まえて、各自が有効な対策を講じましょう。

川崎市感染症発生動向調査事業では、感染症のまん延の防止と市民の健康の保持に寄与するべく、市内の定点医療機関（小児科定点37施設、インフルエンザ定点61施設、眼科定点9施設、基幹定点2施設）等から報告された感染症発生状況をもとに集計を行い、市内の感染症の発生状況の正確な把握と分析、市民や医療関係者への情報の提供を行っています。

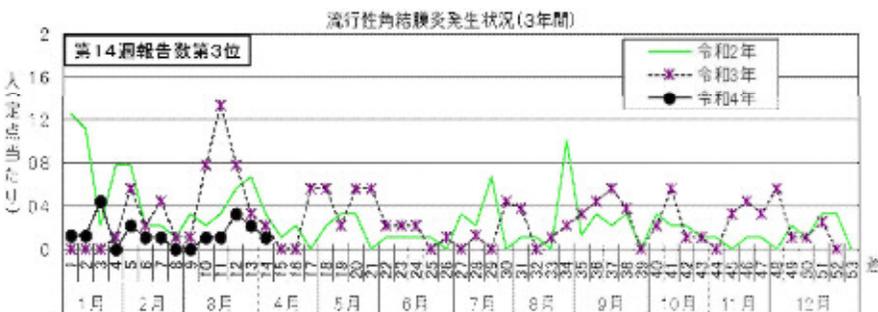
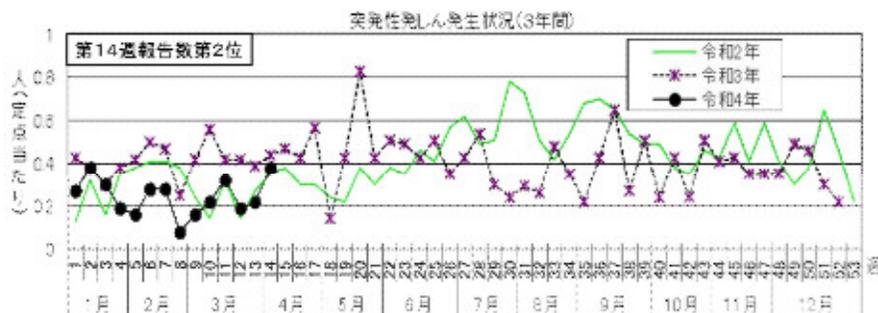
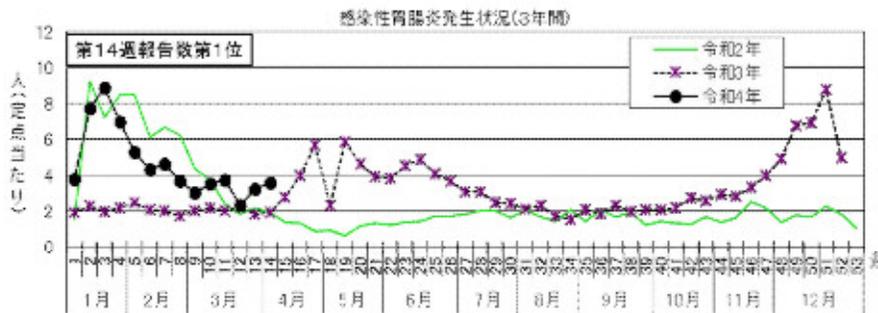
連絡先 川崎市健康福祉局保健医療政策部感染症対策担当 野木
電話044（200）2446
川崎市健康安全研究所 三崎
電話044（276）8250

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年4月4日（月）～令和4年4月10日（日）〔令和4年第14週〕の感染症発生状況

第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 突発性発しん 3) 流行性角結膜炎でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.57人と前週(3.22人)から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週(0.22人)から増加し、例年並みのレベルで推移しています。
 流行性角結膜炎の定点当たり患者報告数は0.11人と前週(0.22人)から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



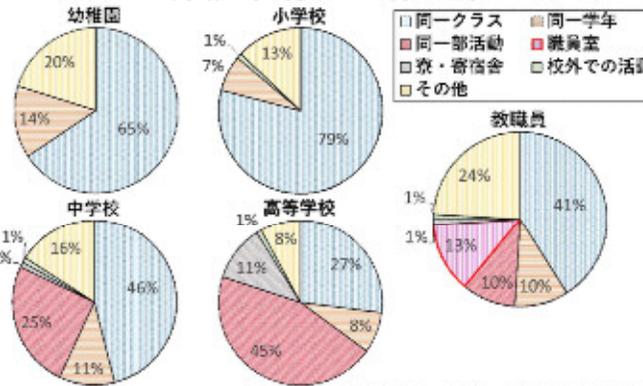
新型コロナウイルス感染症～学校等での予防対策～

新学期が始まり、子ども同士が接触する機会も増えてきました。児童生徒等における新型コロナウイルス感染症の感染経路は、家庭内が最も多いとされていますが、学校内での感染も一定程度報告されています。

学校内感染のうち、同一クラスでの感染は幼稚園では65%、小学校では79%と多くを占めるものの、中学校や高等学校になると同一部活動での感染が25%、45%と多くなります。また、教職員は教室内や部活動だけでなく、職員室での感染も13%認められます。

学校内では、学校や年齢ごとの特徴を踏まえて、各自が有効な対策を講じましょう。

全国における児童生徒等及び教職員の学校内感染経路の詳細
 (令和4年1月1日～2月28日)



文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～学校の新しい生活様式～」(2022.4.1 Ver.2)より作成

学校等での予防対策

マスクの着用

定期的な換気

手洗い・手指消毒の徹底

ソーシャルディスタンスの確保